

けいれん発作後に不穏が遷延し、診断に苦慮した小児の1例

与論徳洲会病院 入江慎二／柘植南美／照井仁／高杉香志也／久志安範

【症例】3歳男児

【主訴】けいれん

【概要】

前日より胃腸炎症状を認めていた男児が翌朝、初発の間代性けいれんを発症し、その後意識レベルの低下や不穏の遷延を認めた。脳症や髄膜炎も考えられた本症例について、考察を加えながら報告する。